

第1回懇談会や関係団体ヒアリングでの主なご意見

第1回懇談会（R1.10.24開催）の主なご意見と対応（案）

1. 古町地区全体について

- ①エリアごとのイメージを持つとともに、古町地区全体としてどう打ち出していくか。

1. 対応（案）

- ①古町地区全体のまちづくりのコンセプトを設定し、ビジョン素案において記載した。

2. 文化・歴史について

- ①湊から人が入ってくるなど、歴史のストーリーを押し出していくとよいのでは。
- ②歴史まち、湊まちのイメージが弱いのでは。どうPRしていくか検討が必要では。
- ③西大畑など周辺も含めて考える必要がある。
- ④小路、通りにもそれぞれストーリーがある。

2. 対応（案）

- ①②ビジョン素案において「取り組みの方向性」を記載した。ビジョンの具現化に向けた具体的な手法についてはビジョン策定後に別途検討する。
- ③④隣接地区、小路や通りについてもビジョン素案において記載した。

3. ターゲットについて

- ①どういう人をどういう流れで古町に呼ぶのか、ターゲットを明確にした方がよいのでは。
- ②住んでいる人の視点も検討してはどうか。
- ③内向け、外向けでターゲットを切り分けて打ち出し方を決めていけばよいのではないか。

3. 対応（案）

- ①②③ビジョンのターゲット（ビジョンを見せたい相手）は古町地区の居住者や所有者等、商店主、まちづくりに関わる人たちなどと整理した。PR手法については、ビジョン素案において「取り組みの方向性」を記載した。ビジョンの具現化に向けた具体的な手法についてはビジョン策定後に別途検討する。

第1回懇談会（R1.10.24開催）の主なご意見と対応（案）

4. 表現・キャッチフレーズについて

- ①上古町門前エリアなど、白山神社の門前町であることが伝わる表現に
- ②「ファッションカルチャーエリア」や「賑わいの創出」などの表現を別の言い方にしてもいいのでは
- ③キャッチフレーズを工夫してはどうか。

4. 対応（案）

- ①②③表現を再検討し、ビジョン素案に反映させた。

5. 街並み（ハード）について

- ①街並みを整備すれば観光客が増えるのでは。
- ②小路の看板のように、町の看板やエリアの看板などを作ってみては。

5. 対応（案）

- ①②ビジョン素案において「取り組みの方向性」を記載した。ビジョンの具現化に向けた具体的な手法についてはビジョン策定後に別途検討する。

6. その他

- ①総花的にするのではなく、明確なテーマを決めて、核を作って取り組む必要があるのでは。
- ②駅からのアクセスやゾーン間、古町の上下方向の回遊性の向上なども検討する必要があるのでは。
- ③ビジョンをどのように具体的な取り組みにつなげていくかも並行して考えていく必要がある。
- ④古町にはいろいろな活動をしている人たちがいる。その人たちの声を吸い上げては。
- ⑤自分たちの街を好きになれるようなものを。

6. 対応（案）

- ①古町の各エリアごとに特徴はあるが、古町地区全体を通してのコンセプト（方針）を設定した。
- ②③⑤ビジョン素案において「取り組みの方向性」を記載した。ビジョンの具現化に向けた具体的な手法はビジョン策定後に別途検討する。
- ④古町地区で活動している各種団体にヒアリングを実施した。

第1回懇談会開催後の主なご意見と対応（案）

7. 追加意見について

- ① 榎谷小路に対して古町通り・本町通りが垂直に展開し、それぞれ商店街が連なっている。それらの副軸のように西堀通り・東堀通りが並行している。都心軸は起点・終点が不明確であり、副軸も信濃川で切れてしまっている。
- ② 新潟中心商店街協同組合（中心協）の設立時に検討した統一的な将来像のテーマとして「新旧MIXカルチャーの発信拠点となり、感性に響く街並みにします。」と掲げている。
- ③ 古町全体のパースは難しいのでは。例えば、JR東日本のデザインのようになんとなく伝わるマークの方が誤解を与えにくいのでは。
- ④ 各商店街ごとのターゲットやまちのイメージは行政主導で決めるのではなく、住民参加型が望ましいのでは。
- ⑤ 交流人口や他拠点居住などの新たな移動社会の観点も必要では。



7. 対応（案）

- ① 古町地区のまちの歴史を踏まえると、都心軸と直行した古町通りや本町通りなどの通りや小路も重要な要素と考えており、通りや小路についてもビジョン素案において記載した。
- ② みなとまちの歴史・文化を感じるものと、新しいものが共存していることが古町地区の特徴と考えており、そのような特徴についても、ビジョン素案において記載した。
- ③ パースについては、「各エリアごとのパース」と「各エリアの特徴が感じ取れる古町地区全体の鳥瞰図的なパース」を想定している。全体パースの必要性については今後の懇談会での議論も踏まえて検討していく。また、マークについてはビジョン策定後、ビジョンの具現化に向けた具体的な手法を別途検討する。
- ④ 各エリアや各施設ごとにターゲットが異なってくると考えられることから、ビジョンの策定においてはターゲットを限定しないこととする。
- ⑤ 交流人口（旅行者）については第1回資料の参考資料3のP61～66に記載があるが、交流人口についてもビジョン素案に記載した。

第1回懇談会開催後の主なご意見と対応（案）

7. 追加意見について

- ⑥都市デザインの各ゾーンを回遊できる環境整備が必要では。古町8・9番町は榎谷小路からの徒歩導線より、広小路からのバス導線の方が移動しやすいのでは。
- ⑦古町7番町が花街エリアに入っているが、古町8・9番町が花街エリア、というくり方の方が分かりやすいのでは。
- ⑧古町6番町は昭和初期から続き喫茶店が多く点在しており、古町5番町はファッション、古町7番町は専門学校が多いためカルチャーに近いのでは。モールエリア、という名称の再検討が必要では。
- ⑨どのようなまちを目指すのか、ということを店主等が自分ごととして自ら考えることが大切。外部から決められるのではなく、自ら考え動くなかで、必要な部分を行政が支援するような協働の仕方がよいのでは。
- ⑩若い創業者の支援だけでなく、老舗として頑張っている店舗等への支援も大切では。例えば植栽や門構えなど時間とともに作られる風情や景観の維持管理への支援も必要では。

7. 対応（案）

- ⑥市全体のまちづくりの検討やビジョンの具現化に向けた具体的な手法の検討の中で別途検討する。
- ⑦ご意見を踏まえ、花街エリアは古町8・9番町とし、古町7番町については、古町モールエリアに整理した。
- ⑧オーバーアーケードという共通項でのエリア分けとしており、各特徴を網羅できる表現を再検討し、ビジョン素案に反映させた。
- ⑨三越閉店や古町ルフルオープンといった、まちの転換期に、市がまちづくりの将来像を示すことで、自主的・自発的なまちづくりの動きが活発化することも期待している。策定するビジョンは確定的なものではなく、社会情勢の変化等によって見直されることもありうるものと考えている。
- ⑩ビジョン素案において「取り組みの方向性」を記載した。ビジョンの具現化に向けた具体的な手法はビジョン策定後に別途検討する。

古町地区で活動する団体からのヒアリング結果①

●ヒアリング団体について

<団体名>

路地連新潟

<代表者>

野内 隆裕 氏

<団体の紹介>

「路地連新潟」は新潟の町を、地形や歴史、路地の風景などを見ながら感じながら、ブラブラとめぐるゆるいコミュニティです。一年を通じてまちあるきを開催しています。



●ヒアリングでの主なご意見について

- 路地連新潟は新潟の町を、まちあるきを通して【楽しんでいる姿を】発信している。その中で現在、全国の「まちあるき愛好家」や「案内人」を通して、お互いの町を行き来する「都市間交流」がうまれている。
※2016年の「NHKブラタモリ新潟」の放送もその成果の一つ
- 2008年から、路地連新潟と、市で取り組んでいる「新潟の町・小路めぐり」のマップ、案内板の活用、「新潟シティガイド」さん達の活動は、小中学校の総合学習でも活用され、大きな成果が出ている。
※2013年、この取り組みはグッドデザイン賞を受賞
- 子ども達が、総合学習等で、自分の町を「知り」・「楽しみ」・「発信」していくことができる環境(地域と学校パートナーシップ事業等)を、今後も支援し続けてほしい。
- 歴史的な施設や場所が、リノベーションされ話題になり、観光雑誌等に紹介されている。輝く拠点ができれば、人は訪れたいくなるのではないか。
※上古町・沼垂テラス・日和山等の取り組みは、それぞれグッドデザイン賞を受賞している。人情横丁や西大畑地区も注目
※日和山は小学校5年生の理科の教科書(学校図書)にも紹介されている
- 古町花街は素晴らしい文化遺産だが、昼間に人が少ないのがもったいない。若者が花街の文化を通し、訪れたいくなるような「オシャレ」な拠点になることも期待している。

古町地区で活動する団体からのヒアリング結果②

●ヒアリング団体について

<団体名>

NPO法人堀割再生まちづくり新潟

<代表者>

川上 伸一 氏

<団体の紹介>

「水の都」が、名実共に新潟の代名詞となるように、市街地に水と緑の空間を創出し、都市環境を変えていくことが目的。



●ヒアリングでの主なご意見について

- 当会は古町の活性化勉強会が出发点。人が自然に集まる広場としての堀があったのでは、という視点から街や堀の歴史を学び始めた。
- 前市長に提言した三本の堀のうち、市民の愛着があって写真も多く残り、古町花街の魅力も活かせる、西堀の再生に注力している。
- かつての堀は交通目的に観光要素もあったが、新たな堀は、新潟の象徴となり、市民の誇り(アイデンティティ)となることに意義がある。
- 堀再生のネックだった交通問題も、世の中の考え方や状況が変化して、道路空間から車を減らし、人に開放する時代になろうとしている。
- 市街地の広い道路や、短間隔の信号は人にやさしくない。車を制限して道路を緑あふれる公園化し、歩くことが楽しいまちになるべきだ。
- 当会も提言し、地元住民の熱意で再生した早川堀通は、緑地や水辺で潤いのある街路が喜ばれ、地域住民も来訪者も愛着を持っている。
- 古町の路地にも小さな緑がある。四季の変化を楽しむ花街の心意気で、この風景と石畳の雰囲気を活かす、建物の修景が必要だ。
- 名古屋の円頓寺商店街は、空き家・空き地をリノベーションで若者の定住や起業を応援する仕組みをつくった。古町商店街もそのような取り組みが必要では。
- 新潟の発祥である古町はまちのへそ。へそを輝かせるには、その歴史を活かして、新たなヒト・モノ・コトを呼び込むこと。

古町地区で活動する団体からのヒアリング結果③

●ヒアリング団体について

<団体名>

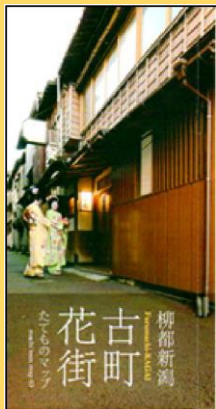
新潟まち遺産の会

<代表者>

大倉 宏 氏

<団体の紹介>

新潟地域の町屋、まち並みなどの文化遺産を保存、継承、活用し、その価値を発信していくこと。シンポジウムの開催、マップの作成、まちあるきの開催などの活動をしている。



●ヒアリングでの主なご意見について

- 新潟島は戦前の町の姿が随所に残る。特に古町8・9の新道周辺は歴史的な花街建築が多く現存する。それらの保存活用が魅力向上につながる。
- 上古町や下町にも多く残っている。古町10番町の旧吉野活版所のような洋風建築も時代の変化を伝える重要な建築。
- 中心市街地の歴史的建造物の保存は、消防法・建築基準法などで困難な環境が作られてしまった。条例などの整備を急ぎ、保存しやすい環境づくりに取り組むべき。
- 新潟は歴史的建築物について行政も市民も関心が低いと感じている。歴史的建築物はまちの財産であるという啓発や活用を進めてほしい。
- 古町は名前の通り歴史的・文化的に価値のある場所。古い建造物はそれを実感させる最重要物件。それらの価値の自覚醸成に一緒に取り組みたい。
- 新潟島には他地域と異なる独自の町屋や花街建築のスタイルがある。改修を行う場合はそれを理解・尊重しつつ行うことが重要。
- 郊外店と同じことをしても太刀打ちできない。ヨーロッパの旧市街的な感じで歩いて歴史なり雰囲気なりを感じてもらうことが大事では。
- 新潟島に5つの重要文化財があることを活用し、「歴史まちづくり法」による国の補助事業として必要な防火対策や環境整備を行うことがベスト。あわせて、歴史的なまちであることをもっと発信してほしい。
- 古い建物に魅力を感じる若い世代も増えてきた。古さを生かした新しいデザインによるリノベやアーティスト参加による活用などで、次世代の関心を高めることも重要。